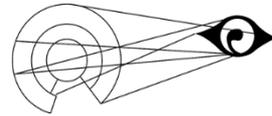


北海道教育研究所連盟情報



平成26年3月発行

～平成25年度共同研究について～

1 研究主題 実践的な指導力の向上を図る教員研修の充実

2 研究の進め方

(1) これからの教員に求められる資質能力について

北海道教育研究所連盟の共同研究は、全国教育研究所連盟（以下、全教連）の共同研究とも連携した取組を進めてきた。

全教連は、平成25年度を平成26年度の研究テーマを決定するための猶予期間としたことから、本連盟としても全国の動きに合わせ、平成25年度は平成22年度から進めてきた第14次の共同研究の継続、充実を図る1年とすることとし、4月の総会で承認された。

そこで、平成25年度の研究主題を「実践的な指導力の向上を図る教員研修の充実」として、第15次共同研究の策定に向けた取組を進めることとした。



(2) 本年の研究の基礎となる第14次共同研究について

本連盟は、第14次共同研究（平成22～24年度）を、全教連の第20期共同研究（平成22～24年度）の研究主題「実践的な指導力の向上を図るこれからの教員研修の在り方」、本連盟の第13次共同研究（平成19～21年度）の成果と課題を踏まえ、各教育研究所・研修センターの研修事業や各学校の取組の成果と課題を、研究・研修事業の改善・充実及び各学校の授業づくりや校内研修の充実に生かすことにより、教員の資質能力の向上に資することを目指した。

北海道教育研究所連盟 第13次共同研究（平成19～21年度）
「実践的な指導力の向上を図るこれからの教員研修の在り方」

全国教育研究所連盟 第20期共同研究（平成22～24年度）
「実践的な指導力の向上を図るこれからの教員研修の在り方」

北海道教育研究所連盟 第14次共同研究（平成22～24年度）主題 「実践的な指導力の向上を図る教員研修の改善」

ア 研究の内容及び方法

テーマ1 「授業づくり」
テーマ2 「校内研修支援」
テーマ3 「校外研修・評価」

【実践の収集・整理】

各所属機関の研究・研修事業の在り方について交流、協議することを通して、事業の成果及び課題の明確化を図る。

【実践の普及・還元】

各所属機関の研究・研修事業の成果を、各学校に普及・還元する方法を明確にすることを通して、各所属機関と各学校との一層の連携を図る。

【評価・改善】

成果の普及・還元の状況を評価する指標を明確にすることを通して、各所属機関の研究・研修事業の改善を図る。

イ 第14次共同研究の成果と課題

第14次共同研究の成果について、教育研究所・研修センターからのアプローチを「外的な支援」、学校としての取組を「内的な支援」としてまとめると次のようになる。

①主な成果

【外的な支援】

- 授業者と教育研究所・研修センターの所員が、共同で学習指導案を作成し、授業後の検討会にも参加することで、校内研修の進め方や授業改善の視点を明確にすることができた。
- 事前のアンケート調査等により、学校の教育課題や教員のニーズを的確に把握し、研究・研修事業の工夫・改善に反映させた。

【内的な支援】

- 日常的に児童生徒による授業評価を実施し、授業改善の視点を明らかにしたり、授業評価を数値化したりすることにより、児童生徒の変容を客観的に把握するようになった。
- 「複数回、検証授業を実施している学校における児童生徒の学力が高い」といった国立教育政策研究所の研究成果を紹介したり、「校内研修におけるワークショップ型の研修手法の活用」について研修講座を実施したりしたところ、目指す児童生徒像の実現に向けて検証授業を複数回実施するようになったり、研究協議が活発になり研究内容の共有化が図られたりするなど、教員の授業改善への意欲が向上した。

②主な課題

- 教員の実践的な指導力の向上について、管理職や各教育研究所・研修センターの所員の観察や事後アンケートにおいて、印象的な評価にとどまっていること。
- 教員の実践的な指導力、資質・能力の向上をどのような観点で見取るのか、明確な観点を示すことが十分ではなかったこと。

3 平成25年度共同研究の内容及び方法

(1) 研究について

平成25年度の研究では、第14次共同研究の成果と課題を踏まえ、次の2点を研究の柱とすることとした。

研究の柱1：「教員の実践的指導力の向上」

これまでの共同研究の成果を生かしつつ、教員の実践的な指導力の向上に向けて、研究内容を一層充実させていく。

研究の柱2：「開かれた教育研究所・研修センター」

各教育研究所・研修センターは、広域な北海道の教育情報センターとしての役割を担うために、そのネットワークを活用していくシステムを整備していく。

本年度の共同研究推進委員会では、これまで、とすれば方法面に偏りがちであった研究内容について、具体的な実践内容も研究対象として進めることができるように協議を重ねた。具体的には、児童生徒に育むべき資質や能力にも焦点を当て、多くの加盟機関が取り組んでいる、思考力・判断力・表現力等の育成や指導した結果を見取る評価についても取り上げた。

(2) 研究の内容及び方法

研究の柱1点目「教員の実践的指導力の向上」は、学習指導や授業改善に関わる視点から、学力の要素である思考力・判断力・表現力等を育む指導の在り方と第14次共同研究で課題としてあげられた「指導の成果を見取る評価」を重点とした。

具体的には、所員・研究員が公開授業を行う際に重点とすること、あるいは、評価の観点を意識して実践を進めることや授業を参観する際にこれらを重視することにより、域内の「教員の実践的な指導力の向上」を図る手立てを明らかにしようとした。実践事例としては、釧路教育研究所の「各教科で育む思考力を明らかにした取組」をはじめとして、十勝教育研究所の「自分や集団の考えを深める協同的な学び合いの工夫」や「2回以上の評価場面の設定」、上川教育研修センターの「目標の具体化及び1単位時間の目標との整合性、評価の工夫」や「校内研修の充実を支援する出前講座の開設」、空知教育センターの「教員に求められる力、ニーズに応じた研修事業」を収集した。

研究の柱2点目は、第13次共同研究からの課題でもある「開かれた教育研究所・研修センター」とした。

具体的には、各教育研究所・研修センターの取組を道連連の各加盟機関が共有し、各地域へ還元していく方策等について検討した。実践事例については、後志教育研修センターの「4つの視点から見た研修講座の改善」の収集と、

詳しくは、「平成25年度北海道教育研究所連盟共同研究集録」

Webページ：<http://www.doken.hokkaido-c.ed.jp//biz/dokenren/>を御覧ください。

4 まとめ

(1) 成果と課題

【教員の実践的指導力の向上】

①主な成果

- ・「授業改善」そのための思考力・判断力・表現力等を育む指導、指導と評価の一体化、複数回評価の実施による児童生徒の変容の見取りに関する実践事例を共有することができた。
- ・「授業改善」を促すための「校内研修」と「教員研修」との関連を意識付けることができた。
- ・「校内研修」支援については、研究所員・研究員が積極的に学校、研究担当者に関わっていく方向性を確認できた。
- ・道連連及び加盟機関の取組の新たな視点として、北海道教育大学と連携し、採用後間もない若手教員に対する研修の在り方が加わった。

②主な課題

- ・地域の実態や課題に応じた取組を含め、各加盟機関で授業改善を図るために工夫した取組や実践を今後も収集し、加盟機関及び道内の先生方が活用できるようにする必要がある。
- ・教職経験年数などを踏まえた、教員のライフステージに応じた研修事業の実施と、そのモデルづくりを進める必要がある。
- ・教員の実践的指導力の向上に向けて収集した各種資料を加盟団体に紹介し、普及・啓発を図っていく必要がある。

【開かれた教育研究所・研修センター】

①主な成果

- ・研修事業の評価を複数回実施し、検証に努める機関が増えた。
- ・実践事例、学習指導案などの共有に向けてスタートすることができた。

②主な課題

- ・一層の事例収集と情報の共有を進める必要がある。
- ・収集した事例の活用、普及・啓発を進める必要がある。

(2) 今後に向けて

第15次共同研究は、これまでの共同研究の流れを踏まえるとともに、次の2点に重点化を図った研究を推進することにより、教員の実践的指導力の向上に資する研究を推進していく。

- 「授業改善」及び授業改善を促す「校内研究」支援
- 地域の実情やニーズ、教員のライフステージに応じた「教員研修」支援

第55回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会 第68回北海道教育研究所連盟研究発表大会（釧路大会）部会報告

平成25年9月5日（木）、6日（金） 会場 釧路市生涯学習センター「まなぼっと繋舞」

第1部会「授業改善」

助言者 渡島教育研究所 所長 細川 敬太郎

| | 発表内容 | 発表機関・発表者 |
|---|--------------------------------------|--|
| 1 | 学習指導の改善に関する研究の取組 ～ICTの効果的な活用の在り方～ | 石狩教育研修センター 指導員 赤井 輝 人 指導員 澤口 敏 之 |
| 2 | 思考力を培う授業づくり ～気づき、考え、納得する学びを通して～ | 釧路教育研究所 研究所員 小川 周 幸 |

<まとめ>

- 授業改善の方策として、授業実践に関わる調査、若手教員向け模擬授業、授業改善の視点を示したリーフレットの作成、学習評価などの取組が行われている。
- 教育研究所・研修センターの取組に関わる教員に限られており、十分な周知につながらないことが課題である。
- 授業改善に関わる教育研究所・研修センターの取組を周知・徹底するためには、学校に出向くことや各校のミドルリーダーにターゲットを絞った働きかけを行うなどの工夫が考えられる。

<助言>

- 各教育研究所・研修センターは域内のセンター的機能を生かした取組が求められている。その視点として、一つ目は、学校運営に働きかけること。二つ目は、校内研究に働きかけることが必要である。
- 学校の課題は何か。それらを学校と共に所員・研究員が理解をして必要な関わりや助言の在り方を検討しながら進めることが重要である。

第2部会「校内研修」

助言者 稚内市教育研究所 所長 高井 徳 廣

| | 発表内容 | 発表機関・発表者 |
|---|---|--|
| 1 | 校内研修を支援する研究・研修事業 ～子どもの学習状況の評価を指導に生かすための研修の取組～ | 上川教育研修センター 研究員 北川 真 美 指導員 吉田 明 弘 |
| 2 | 思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動の充実 ～各教科における学習活動の工夫を通して～ | 十勝教育研究所 主任所員 辻 尚 美 |

<まとめ>

- 校内研修の充実を図るため、小・中学校が連携した校内研修の実施、ガイドブックやリーフレットの作成、校内研修に関わる研修講座の実施、研究協議の在り方の工夫などについて取組が行われている。
- 校内研修での取組と日常の授業実践が結び付いていないことや、校内研修に関わる域内の学校のニーズを十分に把握できていないことが課題である。
- 域内の校内研修担当者が一堂に会して協議を行う場や、実践者を普及員として学校へ派遣して効果的な校内研究の推進方法について広めることなどが考えられる。

<助言>

- 校内研修の支援の前提として、各教育研究所・研修センターは各学校と連携を図り、各学校の校内研修について把握することが必要である。
- 校内研修の充実には、各教育研究所・研修センターと学校との組織的な取組が大切である。

第3部会「教員研修」

助言者 空知教育センター 所長 高瀬 裕 二

| | 発表内容 | 発表機関・発表者 |
|---|--|--|
| 1 | 若手教員の研修 ～教員養成課程における取組と初任段階の研修との接続～ | 北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門 主任センター員 川前 あゆみ 大学院生 大路 直 輝 |
| 2 | ミドルリーダーの育成に向けた研修事業の工夫と 成果を普及・啓発する取組 | 札幌市教育センター 指導主事 高橋 直 之 |

<まとめ>

- 研修講座の内容の充実には、教員のニーズを把握し、ライフステージに応じた内容で構築するとともに、講師の選定に関わる情報収集や市町村教育委員会との連携を図り、内容を充実することが重要である。
- 研修講座を開設しても、十分な参加者が集まらないことが課題である。
- 今後は、教員養成段階との連携や採用後間もない若手教員への支援も求められる。

<助言>

- 教育研究所・研修センターや大学には、地域住民と連携しながら未来の教師を育てることが求められており、効果的に教員の資質能力の向上を図るためには、ポイントを絞り、ライフステージに応じた研修を実施することが必要である。
- 教員の多様なニーズに応じるため、民間教育団体等と連携、協力をを行い、地域の教育力を生かした研修計画を作成することが必要であり、その事務局として、教育研究所・研修センターが役割を果たすことが大切である。

第55回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会 第68回北海道教育研究所連盟研究発表大会（釧路大会）記念講演

平成25年9月5日(木)、6日(金) 会場 釧路市生涯学習センター「まなぼっと幣舞」



国立教育政策研究所初等中等教育研究部
総括研究官 藤原文雄氏による記念講演

第55回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会、第68回北海道教育研究所連盟研究発表大会（釧路大会）が、平成25年9月5日（木）、6日（金）の両日、釧路教育研究所の主管で、釧路市生涯学習センター「まなぼっと幣舞」を会場に開催されました。当日は、全道各地の教育研究所・研修センターから約118名の所員・研究員等の参加があり、2日目の部会では熱心な協議が行われました。

記念講演では、国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官 藤原文雄氏より、「教育研究所・研修センターが果たすべき役割」と、題し御講演をいただきました。

講演の中で、教育研究所・研修センターの所員・研究員に求められることとして、「各地域における先生方に対する適切な支援のために、的確な実態把握をすること」、「教員は誇りある仕事であり、課題とともに先生方のやりがいや誇りとしていることも把握すること」と述べられるとともに、「教育研究所・研修センターが北海道の学力向上と未来のために頑張してほしい」と、エールを送っていただきました。

平成25年度北海道教育研究所連盟夏季所員研修会

平成25年7月30日(火)、31日(水) 会場 北海道立教育研究所

7月30日（木）、31日（金）に開催された「夏季所員研修会」には、所員・研究員など26名が参加し、研修を実施しました。

夏季所員研修会では、所員・研究員の力量向上を図るため、北海道教育の今日的な課題を踏まえた教育研究所・研修センターの在り方についての講話、第14次共同研究の報告と平成25年度共同研究についての説明、各教育研究所・研修センターにおける取組や課題の交流が行われました。

さらに、北海道教育大学釧路校准教授 西村聡氏による「算数・数学科における教科指導の在り方」、北海道教育大学札幌校講師 花輪大輔氏による「授業改善の方向性とICT」の2本の講義では域内で活用できる内容を多く取り入れていただき、所員及び研究員は実践力を高めることができました。

参加者からは、「各研究所・研修センターが抱える課題を知り、ネットワークづくりの必要性を感じました。」、「2人の講師のお話は、所員・研究員の悩みの解決に役立つ内容でした。」などの声が聞かれました。

「夏季所員研修会」は、全道の各教育研究所・研修センターの所員・研究員が一堂に会し、事業内容やその課題解決の方策等を交流できる貴重な機会です。次年度は、内容の一層の充実を図ることができるよう準備を進めておりますので、各教育研究所・研修センターには、所員の積極的な派遣を引き続きお願いします。



演習の様子

平成26年度北海道教育研究所連盟の事業計画(案)

- | | | |
|---------------------------|---------------------------------|---------------------------|
| (1) 総会・所長研修会 | ・ ・ ・ ・ ・ 平成26年4月18日（金） | 北海道立教育研究所 |
| (2) 夏季所員研修会 | ・ ・ ・ ・ ・ 平成26年7月31日（木）・8月1日（金） | 北海道立教育研究所 |
| (3) 研究発表大会(石狩大会) | ・ ・ 平成26年9月25日（木）・26日（金） | 北広島市芸術文化ホール 石狩教育研修センター |
| ※全国教育研究所連盟研究協議会と同日で開催します。 | | |
| (4) 委員会 | ・ ・ ・ ・ ・ 平成27年2月6日（金） | 北海道立教育研究所 |

発行 北海道教育研究所連盟

事務局：〒069-0834 江別市文京台東町42番地 北海道立教育研究所内

TEL 011-386-4512 / FAX 011-386-4988

URL <http://www.dokenren.hokkaid.jp>

E-mail dokenren@hokkaido-c.ed.jp